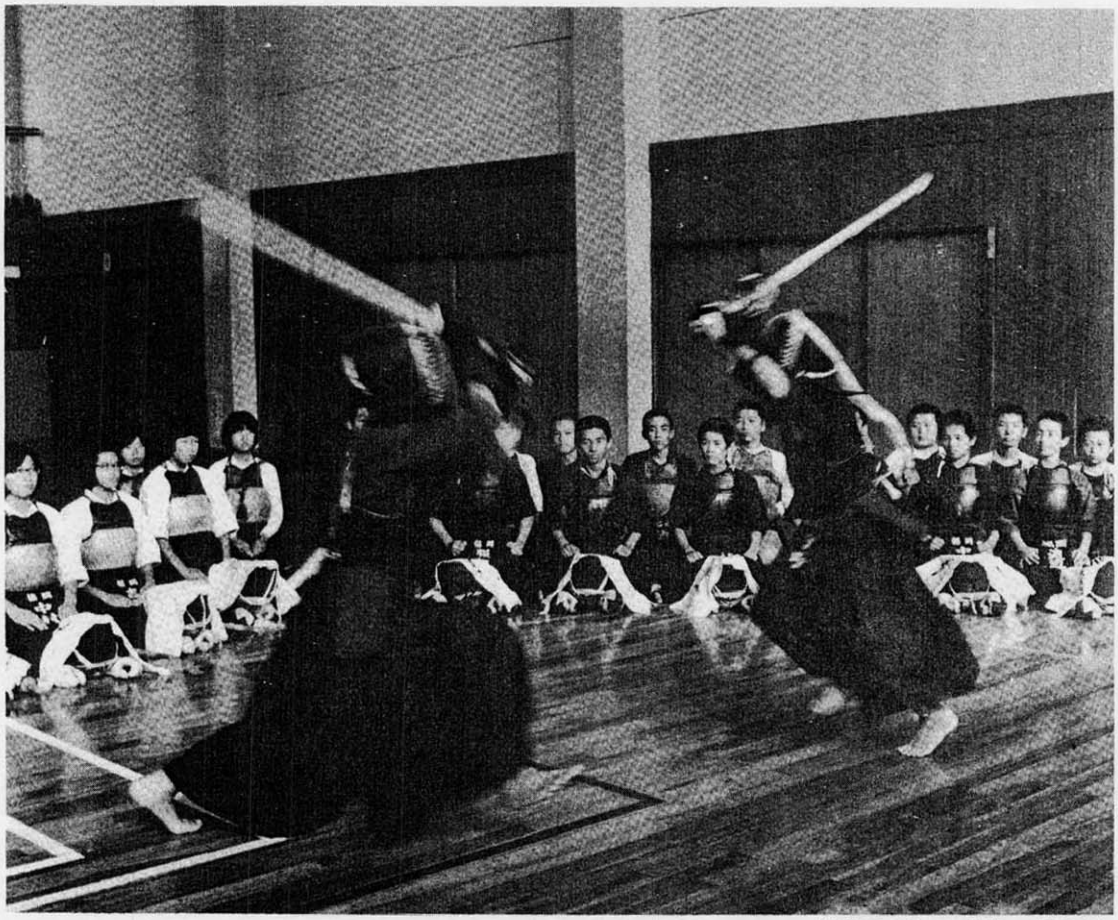
「オーツ」「エヤーツ」
威圧するかけ声
巧みな牽制

相手をじっと見すえる
闘志を剣先に集める
呼吸を静かに整える

その一瞬
鋭い気合いが
静寂を破る

「メーン」
激しく床を蹴って
腕がぐっと伸びる
素速い一振り
あざやかな面一本

昭和52年12月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会



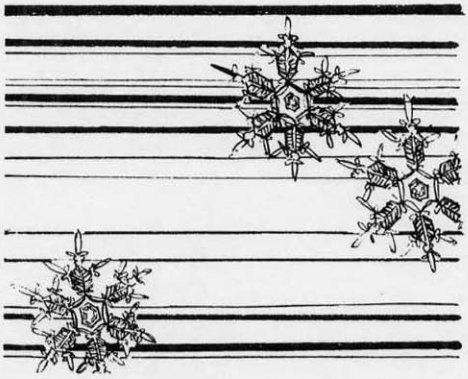
（気魄のこもった練習―福岡中）

―教育随想―

教育雑感

桑子好次

本年は新学制三十周年に当り、各地の学校で記念の式典や行事が実施されつつある。特に現在の中学校は新学制の施行によって新しく発足したので、文字通り創立三十周年を迎えるわけである。中学校の創設は義務教育三か年の延長であり新学制の目だまでもあった。終戦直後の生活物資の不足、疲労困憊の真っただ中の延長であり、その苦労はまことに筆舌に尽くし難いものであった。三十年後の現在、学校の偉容は目をみはるものばかり、感慨無量である。しかし、すべて制度というものは時の流れにしたがって、当初の生々しい精神が次第に薄れ気迫も乏しく形骸化する運命をもっている。新学制も三十年過ぎると制度上の矛盾もだんだん拡大し、その理念も忘れがちになり徒らに形式主義に堕しつつある。この際、記念すべき年を契機に深く反省し、生気を注入して、時代に適応した方向に軌道を修正して力強く前進してほしい。



二学期は研究会のシーズンで学校参観の機会が多い。どの学校も清掃は徹底し、校舎内外の環境はよく整備され、細心の注意が払われて美しい。校長先生はじめ職員一同のご苦労が偲ばれる。近頃の児童生徒の学習状況は昔とちがって、たしかに自主的であり行動的であり、活気にあふれている。当日の日程は大体一斉授業に始まり、分科会、研究発表会、協議会と円滑に進み、講評が好評と感謝で終ることが多い。分科会や研究発表にはスライドや八ミリ映写機が利用され、発表内容や説明もわかり易く洗練され感心することが多い。しかし、時に余りスムースに見事に終ってホッとしてむなしさの残るのはどうしたことか。研究会のもち方が余りにも類型化した点、もり上がりというか感激的な印象深いものがない。いろいろの制約もあろうがなるべく参加者を制限して授業も発表も生々しい、荒けずりのままを率直にぶつけ合って全員が主体的に参加するような研究会の新しい型をつくってはどうであろうか。

例年、三学期になると進学問題がクローズアップされ社会問題として大きな話題となる。中学生九十三パーセントが高校へ、高校生の四十パーセントが大学へと進学する情況は、まさに教育爆発時代である。かかる進学の量的増大に伴う高学歴社会を喜ぶべきか憂うべきか。現実を直視して修正すべきところは修正しなければならない。かつて西欧の中世末期において「教会林立して宗教滅ぶ」と叫んで宗教改革の火ぶたが切られた。近頃「大学栄えて教育衰う」といったショッキングな言葉がきかれる。高校・大学の入学試験の改革もさることながら、明治以来多年にわたる学歴偏重の思想的背景を打破すべき時にきていると思う。一朝一夕にこの弊風を消滅させることは出来ないが、輿論を換起して、辛抱強く是正に努力しなければならない。

（愛知県教育委員）

エンバンを見た子ども

内田ひろみ

「先生って、すごく絵がうまいぞ。」

「おれたちの先生、走るの速いぞ。」

一年生の子は、何かにつけてほめてくれる。私もすぐ有頂天になる。

「ほや、先生は宇宙人だもん。何でもできるだよ。」

と、つい調子にのって口をすべらした。

「ほんなん、エンバンで学校へ来るの？」

「服、たくさんあるの？」

ここぞとばかり、私はどこやらのマンガで見た知識をフルに生かし、黒板にエンバンや宇宙人を書いて、ますます信用を得てしまった。

さて、ある水泳の時間。待てど暮らせど、子どもたちは現れない。

「はよおいでん。何ぐずぐずしとるの。」と声をかけても、シャワーの所で立ち止まり、ひとかたまりになって雲を指さしている。

「先生。エンバン、エンバン。」

目を丸くして、興奮しながら、口々に

「あそこが頭で、あそこがドリルで…。」

河合の里の季節の移り変わりは、まことに妙なものである。早春の息吹をふり出しに、春から夏にかけての変化のすばらしさはいうまでもないが、晩秋から初冬にかけての山路の逍遙も、また一段と趣が深いものである。

秋の山路を辿ると、真赤な実をつけたウメモドキやガマズミ・マンリョウ等に目をひかれる。この地区の山中には実のなる植物がたくさんある。

赤い実の代表はウメモドキである。この木が澄んだ秋空をバックに、輝くばかりの赤い実を枝いっぱいつけているさまは、まさに秋そのものと言った感じ、漢名で落霜紅というのも、うなずける表現である。

ウメモドキは、雌株・雄株の区別のある、モチノキ科の落葉の小木である。枝は暗灰褐色で、細かく枝分れする。葉は互生で、野ウメの葉に似ているので〝ウメモドキ〟の名が付いたといわれる。

誰の目にも美しい、紫色の実をつけるのはムラサキシキブである。少年自然の家のハイキングコースでよく見かける落葉低木である。

ムラサキシキブは、楕円形か長楕円形の葉が対生し、夏の頃、その葉腋に多数の細花を密生する。花は、やはり淡紫色であるが、目立たない。しかし、これが果実となり、秋になって紫に熟し、やがて葉が落ちると、スポットライトを浴びたように一層色が冴えて美しさを増してくる。よくもこんな美しいつぶらな実が野に生まれたものだと思うくらいである。その名を平安朝の才媛紫式部にあやかったというのも、極めて自然でふさわしい名であるといえる。

このムラサキシキブにはいろいろな種類がある。白果のシロムラサキは、この変種である。また、全体が小型のコムラサキ、一名コシキブ、大型のヤブムラサキなどがある。

このほか、河合地区で実のなる植物を列記してみると

●赤い実……ウメモドキ・ガマズミ・マンリョウ・アオハダ・ソヨゴ・ヤブデマリ・クロガネモチ・ミヤマシキミ・ヘビノボラズ・ウスノキ・サルトリイバラ・サネカズラ・アカメモチ等。

●黒い実……イヌツゲ・ヒサカキ・エビヅル・キヅタ・タラノキ・シャシャンボ・イヌザンショウ・ネズミモチ等。

●黄褐色の実……ヤマハゼ・アベマキ・ツブラジイ・アラカシ等。

●紫色の実……ムラサキシキブ・アケビ・ミツバアケビ・ムベ等。

なお、全山を紅に染める木は、ヤマモミジ・カエデ・ヌルデ・ウルシ等である。

河合の里は植物の宝庫といわれる。以上は、そのうちのほんの一例に過ぎないが、機会を作ってもっと詳しく調べたいと思うと同時に、いつまでも、この自然の姿が保たれる事を願っている。

（秦梨小　太田　要）

ムラサキシキブ

メダカのような二年坊主

近藤和夫

私は、新任以来二十余年勤務した中学校から小学校へ移った。

二年担任と聞き、わが耳を疑った。始業式の朝、運動場に並んだ彼らを見て、不安感がしきりと胸を打つ。一応、おとなしく並んでいるが、教室に入れば大さわぎ。ごちゃごちゃ、わいわいとまさに烏合の衆。反面、すばしこく走り、ころがり、群がり、まるでメダカのようだ。

第一日からこんなに世話がやけて、全く先が思いやられるスタートだ。

そんなある日、一人の子供がカブト虫の幼虫を菓子箱に入れ、だいじそうに持ってきた。（中学校ではとても考えられないことだ。）

「先生、まあじきさなぎになって親虫になるよ。」

と、誇らしげに目を光らせた。

それから一週間ほどたったころ

「先生、見て見て。」

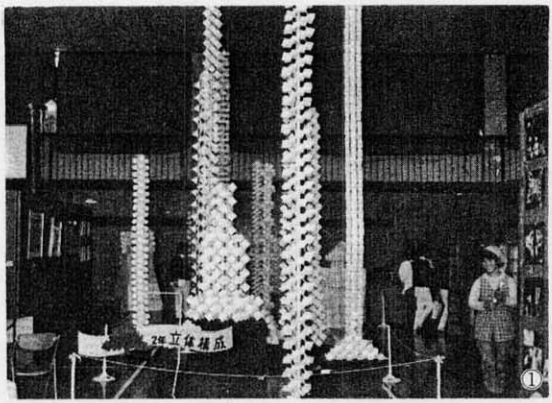
とかん高い声。例の幼虫が一夜にしてさなぎになったのだ。茶褐色に変身した姿を、私は、この年になって初めて見た。

きょうも、両手にはメダカがまつわりついている。私は彼らに教えられることが多い毎日を送っている。（竜美丘小）

私にはどう考えてもエンバンに見えない。だけど、真剣な子どもの顔を見ると「何とろいこと言っとるの。」とも言えないのである。

（井田小）

中学校 文化祭



①一枚一枚のカードから一つの単位形をつなぎ、約十メートルの高さまで積み上げた立体構成。（城北中学校）

②各クラス課題曲・自由曲を歌う。一年「旅に出よう」二年「学級のうた」三年「大地賛頌」（葵中学校）

③紺碧の空に飛翔する千余羽の純白の私の鳥。ひとりひとりの願いをこめた力作は、二千余名の参観者を魅了。（岩津中学校）

④演劇、作品展、ゲームとバラエティに富んだ内容。父兄も協力して作品展やバザーに参加する。（福岡中学校）

⑤自然と共に歩み、心のふれ合いを重視した文化祭。ことに古老から生活の知恵を学ぶ「ふるさとコーナー」は人気抜群である。（東海中学校）

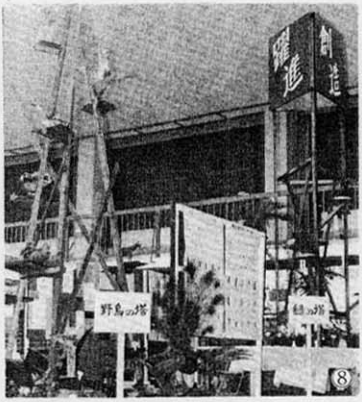
⑥メインテーマは「ゆとりと充実」。学校運営の方針を展示したテーマ館。教師の研究や生徒の学習記録・表彰状等が展示されている。（甲山中学校）

⑦学校保健活動県一位受賞記念の文化祭で、本年度から発足した音楽クラブの器楽合奏。（香山中学校）

⑧「染色の会」「書に親しむ会」「絵に親しむ会」で制作したPTAの作品。生徒会、各教科、文化クラブの展示と、体育館での発表会も同時。（竜海中学校）

⑨「緑・躍進・創造」をテーマに、学区の自然を見つめ、保護の大切さを理解し

⑨



⑧

⑦

⑩世界的な地理学者「志賀重昂」の意気溢れる青年時代の姿を創作劇で熱演、ふるさとの偉人に学んでいる。**（南中学校）**

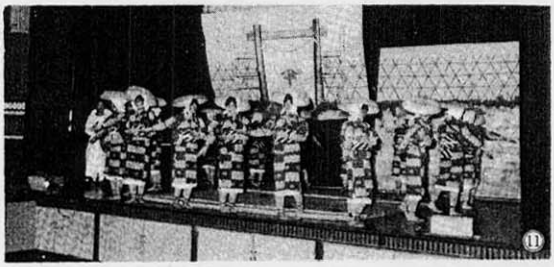
⑪中島の八幡社で行なわれる大嘗祭悠紀斎田の田おどり（毎年七月）を、お田植歌に合わせておどる。**（六ツ美中学校）**

⑫生徒たちの企画運営による園芸植物の即売会。作り方の説明も親切で好評であった。**（美川中学校）**

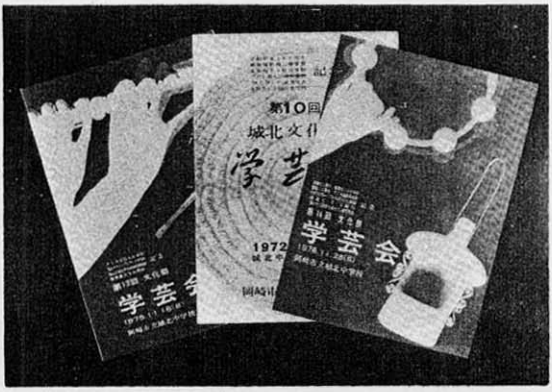
⑬屋外に設けられたステージで、学級劇を熱演する生徒たち。**（常磐中学校）**

⑭千余名の生徒が、大将から農民に分かれて参加、源義経と浄瑠璃姫の物語から三河一向一揆など、矢作の里の歴史絵巻を展開した。**（矢作中学校）**

⑩


⑪

⑫



⑭

⑬

教育日々 一日を生きる

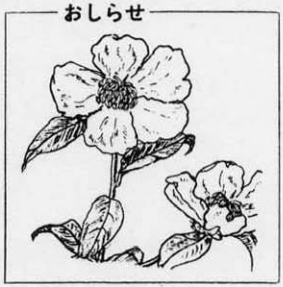
東海中校長　山本忠男

五十になる日、五十年を生きて来た自分に何か贈りものをしようと考えた。その一つに「ある凡愚の一日」という小冊子がある。八十五頁ほどのガリ版刷りである。百五十部ほどすった。しかし一冊も配らなかった。恥ずかしかったから。でも、とにかく長い人生といっても一日を生き切ることにある。真剣な一日の累積でしかないと思った自分は、五十年の時点で、これからの人生を精一杯に生きようとして一日を見つめた結果の産物であった。もとよりとるに足らぬ貧しい産物だが、「教育日々」の原稿を頼まれ、よんどころなく私は改めてこの冊子を取り出してみた。八年を経過した今日では少し変っているが、恥ずかしながら臆面もなくこれを見ながら私の一日を書いてみる。

朝起きると洗面後「おつとめ」をする。父母の写真に挨拶してから、心経をよみ、父母、姉、先祖代々、なき教え子、同僚、朋友の冥福を祈る。それから卒業生の名前を一人ずつ読みあげその幸せをいのる。こんな事を何十年も続けていると意識しなくてもそらでいえるようになる。旅先、入院中などでもなしでやれる。小さい時何百回も素読をやらせられたりお経を何年も読んでいると自然と覚わるものだなと思った。家内一人一人の幸せを祈り、再び教え子の中で気がかりな者の名前をよび「どうか真人間の道をふみはずすな」と念じる。病気その他の子も同様に念じる。学校の子も。「校長として一番大事な事柄は何かというにそれは校長としてどれほど部下の先生たちを愛しているかということである。縁あって知り合ったひとりびとりの人にこの二度とない人生を教師として生きる上にどれほどの光りとなり力となることができるかということではなかろうか」ととなえ、職員の名前を一人一人よんでその幸せを祈る。

学校生徒は全員、終ると次に「誓い」のことばにうつる。この誓いは私が始めて校長になった時、私のような弱い心、不徳な者がこの大命を仰せつかったのだから、何かこう覚悟の程を固めなくてはと思って、三月三十日万難排して伊勢皇太神宮に参拝し、神前に額いてこの誓いを読みあげた。あくる日、静岡県掛川市に行き祖先父母姉の眠る墓前に報告、誓いを新たにして来た。血判をおした。私という人間はなぜこんな大時代的なことをしなくては覚悟がきめられない弱い奴かと思ったが仕方がなかった。必死だった。誓いのことばは皆で十ヵ条ある。一ついついかなる時私の生命を……ではじまるのだがこれも恥ずかしいので省略する。最後に「われ誓って真実の教育の殿堂をここ○○の地に現出せん」「カッ」とまたまた恥ずかしいことをいう。「おつとめ」が終って書斎で「ひとひ」を書く。これもやはり一日をいかに生きたかの細かいメモ帳である。もうあと退職まで○○日しかないで、しっかりしろから始まり、一日の勤務、教える、家族、勉強、誕生祝、職員、生徒、世の中、連絡、本代、合計などの欄をうめてゆく。終ると「ともしび」という日記を書く。今百三十冊目、くだらぬことをだらだらと書くだけだが、あと物をまとめる時に役に立つ。

六時五十六分の準急で登校、部活動を一巡する。始業後は舎内一巡、紙くず拾ったり生徒の靴を直したり。出張、来客、行事、雑事においまくられる。ひまをみて放課に生徒をよび誕生祝いを渡し、少しの間話をする。しっかりやれよと肩をたたいて帰す。今やっていることは一日に一人は生徒に手紙を書くということ。手製色ぬりの便箋四～六枚かく、九人も書く日はいやになる。いつまで続くかしらん。とにかくこのほか大量な手紙をかく。誕生祝いは年間千通ぐらい。「読書のすすめ」「校長メッセージ」を全校対象に始めたがさっぱり続かない。給食を食べながら本を読む。この時しか読む時間がない。部活をみて六時すぎ帰途、古本屋へは三日にあけず立ちよる。そしてガラクタを買う。年のはじめに「今年は本を買わぬこと」と誓いを立てるが、ああそれなのにそれなのに、読みもしない本を買いためる。病膏盲に達した。「また今日も母ちゃんにしかられるな…」「あなたまた本買って来た」「家がつぶれるう。」でも書斎で今日買って来た本の表紙をなぜなぜ頁をめくってうんうんなになるほどなんてやってる時が僕の極楽、十一時すぎバタンキュー、でもねる時自然と口をついて出るのは「お父さん、お母さん、姉さんおやすみなさい」ということばだ。こうしてある凡愚の一日が終る。かわいそうに、こんなことで。



新学制三十周年記念式に
輝く第五回教育文化賞受賞者

記念講演に 西堀栄三郎氏

新学制三十周年を迎え、三十周年事業委員会（委員長城北中小笠原健治校長）が、岡崎市・同教育委員会共催で、

・グラフ「岡崎の教育」編集
・新学制三十周年記念式挙行
・教育誌「岡崎の教育」刊行
・映画「岡崎の教育」の製作

等多彩な事業を進めている。

十一月十六日に市民会館大ホールにおいて、新学制三十年の記念式が盛大に挙行されたが、この式典に先だって、次の個人・団体の方々が晴れの表彰を受け、竜城ライオンズクラ（吉田一夫会長）からそれぞれ賞状・賞金が贈られた。

【個人】▽山本忠男氏（東海中校長）＝三十六年間にわたる教え子との文通・家庭訪問による生涯教育の実践。▽小幡まさ氏（愛宕小教諭）＝二十六年間にわたる作文指導・文集づくりの実践とその成果

【団体】▽現職教育音楽部会（岡崎のハーモニー運営委員会）＝岡崎のハーモニーの運営とその指導。▽長瀬楽人会（代表尾嶋兼市氏）＝郷土芸能・雅楽・舞楽の伝統継承の活動

■葵中研究発表会　11月29日

▽主題＝自主性・協力性を育てる生徒指導▽内容＝公開授業・全体会・分科会・講演―東京学芸大教授飯田芳郎氏

■羽根小研究発表会12月6日

▽主題＝人間性豊かな子どもの育成▽内容＝公開授業、朝の手仕事、遊び、研究発表、全体会講演―県立大教授森田甫三郎氏

【寄贈刊行物・資料等】

◇井田小の体力づくり
井田小学校

無気力・無感動・不器用、こんなシラケ時代をもたらした原因は運動不足である。二か年の研究実績を積む井田小の実践書B6判五九頁。

昭和52年度秋季小中学校各種競技記録

第10回　岡崎市中学校新人総合体育大会成績

10月23日～30日

種目	姓	1位	2位	3位
陸上競技	男	葵	岩津	甲山
	女	矢作	甲山	六ツ美
軟式テニス	男	矢作	附属	香山・福岡
	女	矢作	香山	美川・東海
剣道	男	福岡	葵	常磐・附属
	女	美川	岩津	附属・葵
バレーボール	男	矢作	城北	竜海・岩津
	女	東海	葵	竜海・矢作
卓球	男	東海	河合	附属・葵
	女	東海	竜海	城北・常磐
体操競技	男	葵	甲山	竜海
	女	南	葵	矢作
ハンドボール	男	美川	葵	城北・六ツ美
	女	美川	六ツ美	岩津・葵
柔道		2年の部 1位美川2位竜海		1年の部 1位美川2位竜海
ソフトボール		甲山	岩津	葵・城北
野球		岩津	福岡	葵・六ツ美
バスケットボール	男	葵	竜海	美川・矢作
	女	附属	美川	六ツ美・葵

第16回　小学校陸上競技大会

10月30日公園グランド

	1位	2位	3位
男子総合	広幡	矢作東	三島
女子総合	梅園	細川	根石

陸上競技個人記録

中学校　10月23日　六名公園グランド

種目	男子 氏名	校名	記録	女子 氏名	校名	記録
100M	荻野　竜也	葵	大会新 11″5	小森　緑	矢作	13″9
200M	梅田　武司	岩津	25″1	新美　由香	甲山	28″8
800M	柴田　真人	常磐	大会新 2′09″8	斉田　良美 村瀬　智美	矢作 岩津	∴ 2′34″6
3000M	松本　久	甲山	大会新 9′56″8			
80MH				大塚　幸子	六ツ美	13″0
100MH	石川　誠司	甲山	14″8			
400MH					六ツ美	56″2
800MR		葵	大会新 1′40″6			
走幅跳	荻野　竜也	葵	5M45	小森　緑	矢作	4M60
走高跳	鈴木　健二	矢作	大会新 1M78	榊原　伸子	甲山	1M40
砲丸投	青山　徹	東海	11M74	大須賀倫子	東海	9M94

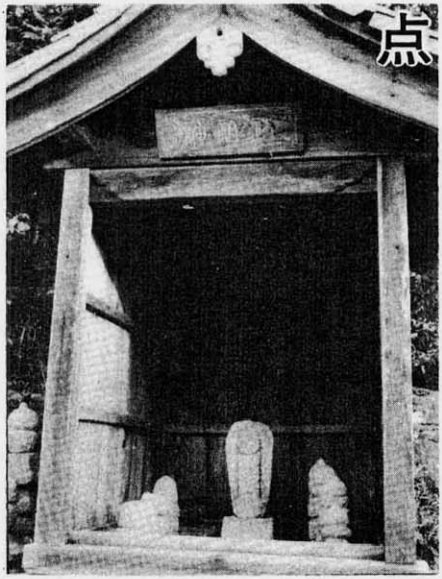
∴タイムレース決勝のため

小学校　10月30日　公園グランド

種目	男子 氏名	校名	記録	女子 氏名	校名	記録
100M	松尾　源二	広幡	13″0	山下多美子	細川	13″8
1000M	大川内康之	六名	3′12″9			
60MH	浅井　富雄	広幡	9″3	前田　陽子	梅園	大会新 9″4
400MR		広幡	56″1		細川	58″3
低400MR		広幡	62″4		井田	大会新 62″0
走幅跳	上田　節男	羽根	4M44	簗瀬　千佐	根石	4M31
走高跳	青山　宗弘	山中	大会タ 1M43	佐野　範子	根石	1M26
ソフトボール投	梅田　厚史	竜谷	66M20	藤原　伸江	緑丘	45M66

点

万松寺道祖神



所在地—岡崎市滝町松谷30

常磐の滝山寺山門から、青木川沿いに百米ほど下ると、万松寺がある。この寺には古くから伝わる道祖神がある。これはおこり落し地蔵といわれ、また性病神としても信仰があったと伝えられているが、その形をよく見ればうなずけるものがある。

大正時代になって急にその存在価値が認められて、考古学や民俗学の雑誌に紹介されたりもした。この道祖神には舟形光背があり、このため地蔵菩薩のようにも見えるが、このようなものは他に例がなく、岡崎市史六巻にも写真が掲載されているほどである。

このように有名になったためか、昭和十年七月二十一日盗難にあったが、八月末に奈良方面で発見され、帰ってきたとのことである。このため小祠を建立してその中に安置し、前に格子をはめて錠がかかるようにしてある。これは現在山門右手に見られる。

●カット　根石小　国島有子

オアシス

おしつまって今年もあとわずか。雪のたよりもしきりとなり、寒さも一しお。

しかし冬の日に南天の実が光り、水仙の香がただよう。ビワは濃緑の葉の間に目立たぬように花をつけている。サザンカの紅、白の花びらが冬枯れの芝生の上に散らばる。冬も意外とカラフル。

人去って冬至の夕日樹に煙り　信子

「新聞をつくろうよ。ねえ、学級新聞を…。」子どもたちにせかされて作ってみた。乗り気だったわけだ。トップ記事は、何と、〝先生の通信簿〟。それにしてもよくみている。いくぶん手加減してあるところがうれしい。

もう、そんな時期になったのか。私だけだろうか、気が重くなるのは……。

あわただしい年末。心の痛みを覚えながら通知票を渡すと、それでもほっとする。反省もしない「反省会」は飲むほどに荒れる「懇親会」みたいだ。多くの悔いと僅かな満足感で年の瀬を越える。もっと早くと思いつつ、百八の鐘を聞きながら

あわてて賀状を書く。こんなことを毎年毎年。あなたは果して。

すきやきの季節。グツグツと煮えるなべを囲み、ハシでつつきながら食べる団らんは楽しいものだ。世界的に有名ななべ料理がすきやきであり「上を向いて歩こう」の題名として有名になった。シスコで、すきやきソングを聴きながら食べたすきやきの味は、また格別であった。ただし、一人前三ドルなり。

この本を

○埋もれた巨像	上山春平
岩波新書	¥1,200
○未来を生きる	A・トインビー・若尾　敬
講談社	¥1,200
○新・日本人のこころ	梅棹忠夫他
朝日新聞社	¥780
○日本の文化	和辻哲郎・古川哲史編
毎日新聞社	¥880
○北の河	井上　靖
中央公論社	¥950
○文章読本	丸谷才一
中央公論社	¥980
○時差は金なり	三菱商事広報室
サイマル出版会	¥950
○袋小路のニッポン人論	A．ホルバート
講談社	¥890
○日本列島地学散歩	竹内　均
平凡社カラー新書	¥550
○無意識の構造	河合隼雄
中公新書	¥340